

*宗教改革演習（キリスト教学専修）

<オリエンテーション>

場所：キリスト教学研究室

時間：金 3

担当者：芦名定道、須藤英幸、南翔一朗

A. 授業の概要と目的

マルティン・ルターの 95 カ条の提題(1517 年)から始まった宗教改革は、あと数年で 500 周年を迎えようとしている。宗教改革はキリスト教界内の出来事に止まらずに、その影響は、西洋世界のあらゆる領域に深く浸透しており、その意義はまさにグローバルと言わねばならない。

本演習は、この宗教改革に関する文献を実際に読み進めることを通して、宗教改革についての基礎から始めて、さらに進んだ理解を目指している。

受講者は、指定テキストの担当箇所を中心に、毎回予習を十分に行い、受講することが求められる。前半での英語のテキストと後半でのドイツ語のテキストの双方を理解するために語学力の向上に努めていただきたい。

また授業の後には、授業中に紹介される関連文献などによって発展的な学習を行うことが望まれる。

B. 授業計画

演習は、初回のオリエンテーション(芦名教授担当)からスタートし、前半(7回)は、須藤英幸講師により、Alister E. McGrath, *The Intellectual Origins of the European Reformation*, Blackwell, 2004(second edition)を講読する。特に、宗教改革の前提である中世思想との関連に留意しつつ、宗教改革が何であったのかについての基礎的な理解をめざす。

後半(7回)は、南翔一朗講師により、Martin H.Jung, *Pietismus*, Fischer Taschenbuch Verlag, 2005 を講読する。Grundriss の章の、>>Pietismus<<- Schimpfwort, Bewegung, Epoche、Stationen des Pietismus の前半部(シュペーナーによるフランクフルトの動き、フランクによるハレの敬虔主義、ツィンツェンドルフによるヘルンフト共同体の歴史に関する部分)、Fernwirkungen und Nachgeschichte (19 世紀以後の展開と研究史に関する部分)と、Vertiefungen の章の中の、Die Theologie des Pietismus、Pietismus und Reformation の部分を読む予定である。つまり、宗教改革の敬虔主義への発展が、後半の主要テーマである。

1. オリエンテーション 4/10
2. 須藤：マクグラス 4/17, 24, 5/8, 15, 22, 29, 6/5
3. 南：ユング 6/12, 19, 26, 7/3, 10, 17, 24

C. 成績評価

成績は、演習の前半と後半のそれぞれの平常点(発表担当などによる演習への積極的な参加の度合い)を総合することによって判定するが、前半と後半のいずれにおいても、レ

ポート課題を課する場合がある。

<導入> 宗教改革の意義

(1) 宗教改革

1. プロテスタンティズムとは何か

- ・原理としてのプロテスタンティズム（宗教史の構成要素）
- ・歴史的プロテスタント（教派・組織として）
- ・プロテスタント時代（プロテスタント教会の存在によって構造が規定された時代）

2. 宗教改革（ルター、ツヴィングリ、カルヴァンら）とその広がり

1517年10月31日、マルティン・ルターは、当時ザクセンで大々的に売り出されていた贖宥状（いわゆる免罪符）に対して、ヴィッテンベルク城教会の扉に「95箇条の提題」を貼りだし、贖宥についての学問的討論を提起した。それは、カトリック教会の破門決定にもかかわらず、最初の意図を越えてヨーロッパ各地に広がっていった（思いがけない波及効果）。

3. 宗教改革の思想内容（三大スローガン）

宗教改革の思想内容については、改革者によって幅があり（例えば、聖餐論争）、簡単な要約は困難であるが、その共通項を宗教改革の三大スローガンと言うべきものに集約することは可能であろう。

「信仰のみ」（信仰義認論）、「聖書のみ」、「万人司祭説」

大切なことは、これら三つのスローガンが、それぞれ内的に連関し合っている点であり、ばらばらに理解すべきではない。

4. 人間は何によって救われるのか？

- ・行為義認
- ・人は救いに十分なほどの善行を実行できるか、あるいは救いを実感できるのか。
贖宥の論理、罪や恩寵についての実体論物的理解
- ・「信仰のみ」＝信仰義認論（信じる心の純粹さという個人の人格性）
パウロに遡り、アウグスティヌスの思想系譜に立つものである。

cf. 法然や親鸞の思想と比較せよ。

5. 理念と現実の緊張

階層的秩序の存続

信仰の自己決定と聖書の情報公開に関連して。

6. 聖書の近代語への翻訳／印刷技術の普及と出版システムの確立／初等教育の普及（識字率）

7. 市民社会の宗教としてのプロテスタンティズム

「聖書のみ」の理念の実現のプロセスからわかるように、宗教改革の普及は、西欧世界の近代化プロセスと基本的に重なり合うものである。

聖書の近代語への翻訳 → 西欧国民文化の基礎

<参考文献>

1. ルター 『キリスト者の自由・聖書への序言』 岩波文庫。
2. 金子晴勇 『宗教改革の精神』 中公新書、『ルターの宗教思想』 日本基督教団出版局。
3. A. E. マクグラス 『宗教改革の思想』 教文館、『科学と宗教』 教文館。
4. 金子晴勇、江口再起編 『ルターを学ぶ人のために』 世界思想社。
5. 徳善義和 『マルティン・ルター——ことばに生きた改革者』 岩波新書。
6. 日本ルター学会編 『宗教改革者の群像』 知泉書館。

*キリスト教史における宗教改革の位置

芦名定道「近代／ポスト近代とキリスト教—グローバル化と多元化—」

(現代キリスト教思想研究会『キリスト教と近代化の諸相』(2007年度 研究報告論集))

<https://sites.google.com/site/kyotochristianstudies/home/modernity/journals>

1 問題

2 近代とポスト近代

(1) いつから近代か

「近代」を論じる場合にまず明確化する必要があるのは、近代をいつからいつまでの時代区分と考えるかという問題である。近代とは、中世とポスト近代（あるいは現代）との対比における近代であり——そもそも「中世」という時代区分は、近代の側から古代と近代の間の時代として、基本的に否定的なニュアンスで使用されたものである——、時代区分の問題は、近代理解の本質に関わっている。本稿では、まず、近代の時代区分の問題に対して、次の三人のキリスト教思想家の議論を参照することから、考察を始めることにしたい。その三人とは、トレルチ、ティリッヒ、パネンベルクであり、それぞれ世代を異にしつつも、影響関係において結ばれたキリスト教思想における近代論の代表的論者であり、この100年あまりのキリスト教的近代論を概観する上で、重要な位置を占めている。

まず、トレルチであるが、ドイツ語著作集第四巻に所収の三つの論文によって、トレルチの近代論における近代の時代区分をめぐる論点を整理して見たい。

トレルチの近代論、とくに近代の時代区分の議論で注目すべきは、おおよそ17世紀までと18世紀以降において区切られた古プロテスタンティズムと新プロテスタンティズムの区別である。これは、次の引用が示すように、近代が宗教改革とルネサンスという二つの基本的傾向によって規定されていること、そして、厳密な意味における近代が啓蒙主義から始まるということの意味する——古と新という二つのプロテスタンティズムの区別は、この啓蒙主義の以前と以降に対応する——⁽¹⁾。

「宗教改革とルネサンスとがこの人文主義的新プロテスタンティズムのなかでこのようにして融合した状況がそのまま長続きしなかったことはいままでもない。新プロテスタンティズムのなかで結びつけられたこの二つの基本的傾向(die Grundrichtungen)はふたたび次のような種々のかたちで分離するに至った。」(Troeltsch, 1913b, 294)

「啓蒙主義は、教会や神学によって決定されていた従来の支配的文化に対立することによ

って、ヨーロッパの文化と歴史における厳密な意味での近代の開始であり基礎をなすものである。」(Troeltsch, 1897, 338)

ここで問題となっている啓蒙主義とは、単なる政治思想や思想運動を超えて、「生の全領域にわたる文化の全面的変革」(eine Gesamtumwälzung der Kultur auf allen Lebensgebieten, *ibid.*, 339)を意味しており、「国家契約説」(国家の神学的基礎の破壊)、「近代の寛容国家」「教会の自然法的解釈」、「政治的、経済的、そして精神的自由を欲求する市民階層」、「新しい経済理論および社会理論」「重農主義」、「自然道徳」「自然宗教」、「新しい数学的・機械論的自然科学」、「コモンセンスや自然主義」、「啓蒙文学」、「新しい教育制度」、「啓蒙主義の神学」といった広範な諸契機を統合するものと理解されねばならない。⁽²⁾この啓蒙主義がもたらした変動は、近代を二つの時期に区分するものとなり、プロテスタンティズムもそれぞれに対応して、古と新に分けられることになる。つまり、「正統信仰もしくは国家教会としての古プロテスタンティズムと、近代思想によって縦横に浸透された自由教會的、平等的な新プロテスタンティズム」(Troeltsch, 1913a, 191)の二つのプロテスタンティズムである。

このようにトレルチは、近代の内部に決定的な変動を読み取ることによって、いわば近代を広義の近代と狭義の(厳密な意味での)近代の二つの意味で使用し、18世紀以降のキリスト教が置かれた近代の状況の明確化を試みていると言えよう。

...

(2) 時代区分の客観性？

これまでの議論からわかるように、動的プロセスとしての「近代」という歴史時代を、一義的かつ客観的な仕方で前後の歴史時代から区別することは困難である。これは、近代のみならず、時代区分全般に対して指摘されねばならない事柄であり、いわゆる弁証法的歴史理論の主張する歴史理解に他ならない。

...

(3) 時代区分する研究者の視点

時代区分は、単なる主観の問題ではないとしても、一義的な客観性によって規定できる問題ではない。歴史的展開過程の中に現れたどの要素に注目するのか、何を指標にして時代区分を行うのか、に関わる研究者の側の視点をぬきに、時代区分を論じることはできない。つまり、時代区分する際に注目されるメルクマールの設定という問題である。メルクマールの設定次第では、アウグスティヌスは古代の最後の思想家としても、あるいは中世の最初の思想家としても位置づけることが可能であるし、⁽⁷⁾ガリレオやニュートンは中世的思考法を保持した思想家としても、あるいは近代科学の父としても、いずれの仕方でも論じることができる。⁽⁸⁾

ここでは、近代という時代区分を考える際に重要になるメルクマールとして、近代というシステムを構成する諸サブシステムに注目してみたい。近代的システムの生成に対して、キリスト教、とくにプロテスタント・キリスト教が決定的な寄与を行ったことについては、これまで様々な仕方で議論がなされてきた。マックス・ウェーバーは、プロテスタント(カルヴィニズム)の禁欲的エートスと資本主義の精神との関係を指摘し(ウェーバー・テー

ぜ)、リンゼイは、ピューリタンの教会会議の経験と議会制民主主義との積極的関わりを論じている(リンゼイ・テーゼ)。そして、マートンは、ピューリタンの科学者が近代科学の成立に重要な寄与をなしたと論じた。⁽⁹⁾ これらのサブシステムの最初の生成の現場であるイギリスについて言うならば、17世紀から18世紀にかけての時期が、これらのサブシステムの成立期であって——もちろん、厳密にはサブシステムの生成は連動しつつも同時ではない——、トレルチの言う古から新へのプロテスタンティズムの転換は、まさにこの時期に重なっている。

しかし、サブシステムがその後世界的規模で展開してゆく際に、それらの移動と定着について、サブシステム間にかかりの時間差が生じていることがわかる。一般に、近代科学の移動と定着はもっとも早く、それに資本主義的経済システム(市場経済)が続き、民主主義的システムはもっとも速度が遅いように思われる。こうしたサブシステム間の時差の存在はそれ自体興味深い研究テーマであるが、ここでは、どのサブシステムに近代のメルクマールを見るかによって、近代の始まりの時期が異なってくる点に注目したい。たとえば、日本はいつ近代化したと考えるべきであろうか。近代科学や教育システムに注目するならば、近代日本は明治のかなり早い時期に始まり、また資本主義経済システムをメルクマールにするならば、近代化の時期はやや後にずれ込むであろう(1880年代から90年代)。しかし、政教分離を含む近代議会制民主主義の確立という点から言えば、日本の近代化はさらにかなり後、たとえば、第二次世界大戦後と考えるべきかも知れない。

したがって、キリスト教思想の観点から近代あるいはポスト近代を論じる場合、近代のメルクマールをどのように設定するのか、またそのように設定する理由は何かが、明確化されねばならないのである。

...

3 グローバル化と多元化

(1) 近代化の動態

(2) 国民国家とナショナリズム—近代のメルクマールとして—

(3) 近代の構造

4 展望

(1) ポスト近代は始まったのか

(2) キリスト教にとってポスト近代はいかに評価できるのか

↓

宗教改革：二つの方向で理解できる。

- ・ 中世から古代へ
- ・ 近代へ

・ 金子晴勇『ルターとドイツ神秘主義——ヨーロッパ的靈性の「根底」学説による研究』創文社、2000年。

『近代自由思想の源流——16世紀自由意志学説の研究』創文社、1987年。

・ Jaroslav Pelikan, *4 Reformation of Church and Dogma (1300-1700)*, The University of Chicago Press, 1984. (*The Christian Tradition. A History of the Development of Doctrine*)